

図説もりぐちの文化財 2

梶2号墳の埴輪

本冊子の作成にあたっては、守口市埋蔵文化財調査報告書『梶遺跡』(平成3年)、同『梶遺跡第二次発掘調査概要』(平成6年)にもとづき、兵庫県立考古博物館『埴輪の世界』(令和元年)、高槻市立今城塚古代歴史館『三島埴輪総覧』(令和2年)などを参考にしました。また高橋克壽氏、安村俊史氏よりご教示・ご指導を得た。埴輪の写真(表紙除く)は橋本好祐氏による。

なお、梶2号墳出土の埴輪群は守口市郷土資料展示室(守口市立図書館内)で常設展示されている。

梶2号墳の埴輪

図説もりぐちの文化財 2

令和4年2月発行

編集:守口市市民生活部

生涯学習・スポーツ振興課

発行:守口市教育委員会

守口市京阪本通2丁目5-5

印刷:喜光堂印刷株式会社



梶2号墳の調査

梶2号墳は、平成元年(1989)に、市営梶第1団地建て替え工事の際の発掘調査で発見された古墳である。周溝をめぐらせた帆立貝式古墳(前方部の短い前方後円墳)で、墳丘全長は29.7m(推定)、周溝をふくめた全長は約37mある。6世紀初め頃に築造されたと考えられる。

古墳の前方部と後円部の境のくびれ部付近の周溝から多種多様な形象埴輪が、また後円部に接する周溝から円筒埴輪や朝顔形円筒埴輪が出土している。復元できたものだけでも、人物埴輪(4点)、家形埴輪(2点)、馬形埴輪(1点)、牛形埴輪(1点)、犬形埴輪(1点)、猪形埴輪(2点)、鳥形埴輪(1点)、大刀形埴輪(1点)があり、鹿形埴輪、蓋形埴輪、楕形埴輪、靱形埴輪の破片や、円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪もある。また、動物装飾付須恵器壺も出土した。これらの埴輪群と動物装飾付須恵器は、平成10年(1998)市指定有形文化財(考古資料)に指定した。



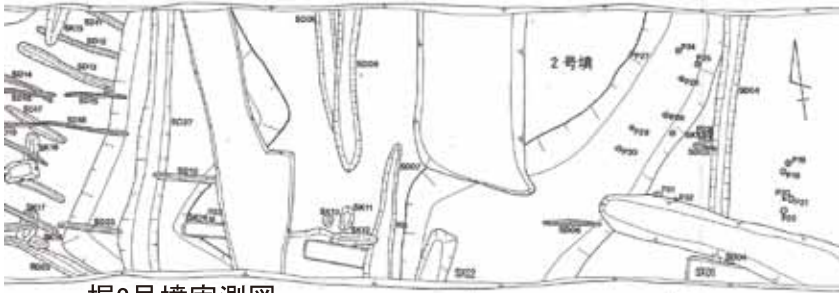
梶2号墳付近地図



調査地全景(東から)



調査地全景(西から)



梶2号墳実測図



梶2号墳西側くびれ部



梶2号墳東側くびれ部



家形埴輪とは

形象埴輪の一種で家の形を模したものだ。古墳時代のほぼ全期間を通して作られた。屋根は入母屋造、寄棟造、切妻造などがあり、四壁には出入口や窓をしめす方形の孔がある。屋根に堅魚木かつおぎを上げたものは、豪族・有力者の居館とみられている。

梶2号墳家形埴輪A

入母屋造の家形埴輪で、上下を別々に作り、焼成して、組み立てている。復元全高約70cmである。

屋根上には単純な丸棒状の堅魚木5本(残存は3本)を置く。また屋根の各所に刺突孔がある。

母屋の四壁は残りが悪いが、出入口や窓が復元可能である。



円筒埴輪と形象埴輪

埴輪には、大きく分けて、円筒埴輪と形象埴輪の二種がある。

円筒埴輪は土管のような筒状で、外側に「タガ」という帯を何段かめぐらせた埴輪である。円筒埴輪の仲間で、上部が大きく外に広がる朝顔形円筒埴輪もある。

形象埴輪は家や武器・武具、人物や動物などの形をしたもので、梶2号墳からも様々な形象埴輪が出土している。



梶2号墳家形埴輪B

家形埴輪Aと同工の入母屋造の家形埴輪で、復元全高が約80cmとやや大きい。

屋根上には堅魚木の痕跡が5カ所認められる。母屋の四壁の残りが悪いのも家形埴輪Aと同様である。





梶2号墳男子埴輪 1

頭部および背中上部が残っている。頭髪はまとめて後頭部に垂らし、また側頭部から肩にかけて、「みずら」にした髪の流れがある。



梶2号墳男子埴輪 2

男子埴輪1と同様の形態で、頭髪はまとめて「みずら」にし、後頭部にも垂らしていた。背中に矢柄の剥離痕跡がある。



梶2号墳男子埴輪 3

頭部および背中が残っており、肩幅が広い。頭髪は後頭部に垂らすとともに、「みずら」にして肩の前まで垂らしている。



梶2号墳女子埴輪 1

顔面の一部、および右肩～右背中の一部が残っている。首飾りをし、上腕部に玉状腕輪の痕跡があり、巫女と考えられる。



梶2号墳埴輪集合



梶2号墳馬形埴輪

頭部の残りが良好で、楕円形鏡板、辻金具があり、背に鞍をおいた飾り馬である。立派なタテガミも表現されている。



梶2号墳牛形埴輪

頭部から背中にかけての部分が出土している。頭部には耳が残り、角のはがれた痕跡もある。鼻先には鼻緒孔が貫通している。



梶2号墳猪形埴輪

猪形埴輪1・2は、ほぼ同形・同大で、目・鼻・耳・タテガミの表現も酷似しており、同一工人の手になるものとみられている。



梶2号墳猪形埴輪 1



梶2号墳猪形埴輪 2



梶2号墳
鹿形埴輪
の角部分



梶2号墳鳥形埴輪



梶2号墳犬形埴輪



梶2号墳楯形埴輪



梶2号墳楯形埴輪

たて
楯形埴輪

楯形埴輪は、板状の楯面を円筒(埴輪)の前面に取り付けたもので、古墳主体部や家形埴輪群などを外敵から守るために立てられた。楯面には鋸歯文(三角形が連続する文様)を入れることが多い。

きぬがさ
蓋形埴輪

蓋形埴輪は、貴人にさしかける傘をあらわしたもので、家形埴輪群を取り巻くように古墳上に立てられた。本品は傘部の上に差し込む立飾りである。



梶2号墳蓋形埴輪



梶2号墳形象埴輪片各種



梶2号墳動物裝飾付須恵器壺

梶2号墳
大刀形埴輪

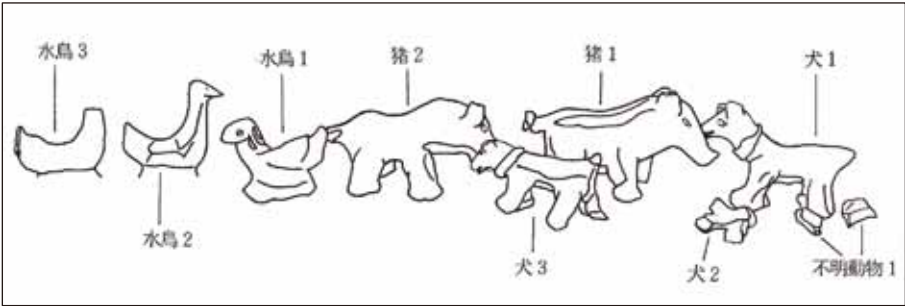
たち つか
大刀形埴輪把部

大刀形埴輪は、大刀を模した埴輪で、把部と鞘部からなる。本例は裝飾付きのまが切がわ勾革部を残す。剣とする説もある。



梶2号墳円筒埴輪

梶2号墳朝顔形円筒埴輪



(上) 梶2号墳動物裝飾付須恵器壺

(下) 動物裝飾展開図

裝飾部分には9体の動物像が残っており、1体は接合部分の基底部が残るのみであったが、位置関係から犬と思われる。犬1は尻尾を巻き、粘土帯により首輪をしているなどほぼ完全な状態で残り、柴犬に類する中型犬で、猪1と対峙している。犬2は接合部分の基底部と尻尾が残り、子犬と思われ、これもまた猪1と対峙している。犬3は犬1と同様であり、猪2と対峙している。猪1は完全に残り、尻尾を巻きタテガミをもち、牙はない。猪2は耳の部分若干欠損しているほかは、ほぼ完全に残り、尻尾は巻きタテガミをもち牙の表現はない。水鳥1は首は短く、頭は扁平で、後頭部に線で楕円形の表現が2カ所あり、胴体にも同様の表現が2カ所あった。また、向かって右側の羽翼部にも2カ所平行して同様の表現がある。これらの特徴からガンカモ科のミコアイサという水鳥のオスと一致する。ミコアイサは、秋に本州にも飛来し、内陸の湖よりも海岸沿いの沼などで主に単独でみられる。水鳥2は首が長いという以外は特徴が少なく、どのような鳥かはわからない。強いて近い鳥類をあげると、サカツラガン、カルガモ、ヒシクイなどである。水鳥3も水鳥2と類似していることから同様の鳥と思われる。